

「土呂久に集まれ！」新聞



令和7年度12月号（第8号）



インスタグラムもフォローしてね!!

発行 宮崎国際大学教育学部「土呂久に集まれ！プロジェクト」

(<https://sites.google.com/sedu.miu.ac.jp/torokuniatsumare/>)

作成 教育学部2年 学籍番号 20242011 橋本幸汰

みなさん、こんにちは！「土呂久に集まれ！」新聞です。おでんが食べたい季節となってまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

今月の「土呂久に集まれ！」プロジェクトの活動を、紹介していきます。

桜の下で繋がる活動

12月5日から7日までの3日間、私たちは「桜の下で繋がる活動」に参加してきました！恒例となっているこの時期の土呂久地区への訪問は、1年で最も大きなイベントです。

この活動のすごいところは、現役メンバーだけでなく、卒業生やボランティアの方々も土呂久のためにと駆けつけてくれること。昨年は歩道の整備や看板作りを大成功させましたが、「今年は何ができるだろう？」と、みんな出発前からワクワクが止まりませんでした。

期待と少しの緊張を胸に訪れた、冬の土呂久。さて、今年はどんな物語が待っていたのでしょうか？

桜の下で繋がる活動1日目～大切坑見学～

土呂久に到着した私たちが最初に向かったのは、「大切坑（おおぎりこう）」の見学です。そこはかつて土呂久公害の時代に、実際に使われていた坑道。今回はなんと、高千穂町役場の方のご協力の下、特別に中を見学させていただきました！

ヘルメットを装着して一步中へ入ると、そこには驚きがありました。

私たちが一番驚いたのは、その道の長さです。整備されている区間だけでも、なんと道のり500メートル以上！当時の過酷な作業環境と、労働者の努力を肌で感じることができました。

暗い坑道をじっと見つめるメンバーの表情は、いつも増して真剣そのもの。

「この大切坑で、人々はどんな思いで働いていたのだろう」

教科書や資料で見るのとは違う、生きた歴史の重みが、暗闇の中から静かに伝わってきました。この地が歩んできた背景をしっかりと胸に刻んだことで、明日からの整備活動への責任感がより一層強まった1日目となりました。

裏面（2枚目）には2日目の活動の様子を掲載しておりますので、ぜひ続けてご覧ください！



↑坑道を流れる水を観察する井野敏紀（4年生）



↑役場の方のお話を聴きながら坑道を観察する岩切友敬（4年生）、坂本珀美（2年生）、今村朋也（4年生）、濱砂剛志（2年生）、工藤康太（2年生）

桜の下で繋がる活動2日目

～国見ヶ丘の朝日～

2日目は、ちょっと早起きして、みんなで朝日を観に行きました！

行き先は、私たちが寝泊まりする土呂久公民館から17キロほど離れた場所にある国見ヶ丘です。

朝、布団から出た瞬間から、あまりの寒さに体はガチガチ…！ 吐く息も真っ白な中、みんなで車に乗り込み、いざ国見ヶ丘へ。現地に到着し、車から降りるとさらに鋭い冷気が襲ってきます。ガタガタと震える足に力を込めて展望台へと向かい、身が縮こまるような寒さの中で、じっとその瞬間を待っていると…

山の端からゆっくりと姿を現した朝日は、私たちの凍えた体を優しく包み込んでくれるような、力強く、そして温かい光でした。

「よし、今日も一日頑張るぞ！」

大自然からもらったエネルギーを胸に、私たちは最高のスタートを切ることができました。



↑国見ヶ丘の朝日



↑朝日を見る橋本幸汰（2年生）、
井野敏紀（4年生）、濱砂剛志（2年生）、
岩切友敬（4年生）

～ベンチ作り～

実は今回の活動の大きな目的の1つは、土呂久さくら公園に訪れた人が一息つけるようなベンチを作成することでした！ 材料は、土呂久にある廃木です。自分たちで木を切り出し、丁寧に皮をはいで、しっかりと乾かすところから準備を始めました。

慣れない作業に、時には手が止まってしまうこともありました。地域の方のご協力の下で作業を進めました。そして2日目の午後、ついに…私たちベンチを完成させることができました！

自分たちの手で作り上げたベンチが公園に設置された様子を見たときは、言葉にできないほどの達成感で胸がいっぱいになりました。

これからこの公園を訪れる人たちが、このベンチに腰を下ろして、土呂久の豊かな自然や歴史にゆっくりと想いを馳せてくれたら。そんな願いを込めて作った、世界に一つだけのベンチです。私たちの活動が、また形になった、最高の活動となりました。



↑ベンチをガスバーナーで乾かす
濱砂剛志（2年生）と地域の方の佐藤孝輔さん



↑ベンチに腰掛ける齋藤翔太朗（4年生）と
佐藤孝輔さん

～歩道の整備～

また、今回の活動では新しいものを作るだけでなく、これまでの活動を守ることも大切にしました。昨年自分たちが一生懸命に作った歩道の周りに、いつの間にか生い茂っていた雑草をみんなで丁寧に刈り取りました。

「自分たちが作った場所を、自分たちの手で守り続ける」

そんな責任感を持って作業し、すっかり綺麗になった道を見て、改めて活動を継続していくことの重みを実感しました。



↑歩道を整備する工藤康太（2年生）、
舛永綾花（2年生）、濱砂剛志（2年生）、
濱口愛美（2年生）森園恵実（2年生）

ご一読ありがとうございました。

桜の下で繋がる活動の様子の続きは、来月号をお楽しみに！